

## 論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博(医)甲第1263号	氏名	山崎 励至
論文審査担当者		主査教授	上 平 憲
		副査教授	片 峰 茂
		副査教授	松山 俊文
論文審査の結果の要旨			
1.研究目的の評価			
<p>同種造血幹細胞移植を行った成人T細胞白血病(ATL)の移植後のHTLV-1感染細胞を、クローン特異的細胞と非特異的感染細胞に分子生物学的に区別し、その動態と白血病微小残存病変(MRD)やドナー由来リンパ球との関係を明らかにしようとするもので、目的は十分に妥当である。</p>			
2. 研究手法に関する評価			
<p>同種造血幹細胞移植を実施した22例のATLの末梢単核球を材料とし、RT-PCRによるウイルス定量、白血病特異性PCRによるMRDの評価およびSTR法によるクローン性帰属などを的確に行い、研究手法も妥当である。</p>			
3. 解析・考察の評価			
<p>移植患者の末梢血から多くの症例で感染細胞が観察され、その由来はドナー由来が大半で一部白血病細胞由来であった。またPCR法陰性でもATLの再発やコロニー法での解析結果などから移植後の感染細胞の起源は多彩でプロウイルスの分子病態は多様であることを、適切に解析・考察されている。</p>			
<p>以上のように、本論文はATLの病態解析・治療・病因ウイルスとの関係など臨床腫瘍医学に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			